

**手稲山口**  
 手稲山口の名称は、明治14年、山口県人が入植し、翌年、山口村と称したことに由来しています。  
 明治15年から16年にかけてトノサマバッタの襲来があり、この時のバッタの死骸と卵を埋めた畝状の塚は手稲山口バッタ塚として、札幌市指定の文化財になっています。



◀昭和47年頃の山口スイカの取り入れ



▲昭和30年頃の手稲駅北側の風景。左手は樽川通

**曙**  
 曙は、いつごろから開けたのか定かではありませんが、地名は、将来ほのぼのと明けてゆくという願いを込めてつけられたと言われています。  
 以前ここには面積約200ヘクタールの三浦農場があり、水はけの悪いこの地に土功排水という排水路が築かれました。  
 現在、農場は幼稚園と住宅地に、排水路は環境護岸を施した手稲土功川に、それぞれ生まれ変わっています。

**星置**  
 星置は、明治17年に広島県人が移住してきたのが始まりです。  
 小樽と札幌を結ぶ交通の要所だった星置は、星置越道路、軍用道路など陸路が発達していました。  
 星置の名称は、アイヌ語に由来するという説も含め多くの説があり、今なお疑問の多い地名ですが、その地名から、公園の名前や町内会名などに、星や宇宙の名前が多く使われています。

**稲穂**  
 稲穂は、明治4年ころ最初の開拓者が入植したのが始まりです。開拓当時は、うっそうとした原始林が広がっていました。  
 もともと星置の一部であったこの地が稲穂と名付けられたのは、稲の穂がたわわに実ることを夢見て、開墾に全力を傾けた先祖の苦勞をしのぐため、と言われています。



**金山**  
 金山は、「手稲鉾山」の繁栄とともに築かれたまちです。  
 この地は、もともと星置の一部でしたが、星置川で砂金が見つかったことなどから、金の山、きんざんと呼ばれるようになり、後に金山と名付けられました。

**手稲の名称は：**  
 手稲の名称は、アイヌの人たちがこの地を「テイネ・イ（濡れている所）」と呼んでいたことに由来する、と言われています。



◀最盛期の面影を残す昭和23年頃の手稲鉾山（航空写真）